

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 28-013  
 担当 北上  
 内線等 23-7341

PDCA	事務事業名	空の科学館、体育館管理運営事業	部課等名	教育部生涯学習課 生涯学習担当			
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第6章 自立した地域経営のまち 節： 第1節 行財政運営とサービスの向上 基本施策： 1. 行政運営 単位施策： (2) 市民サービスの向上 個別施策： ②公共施設でのサービスの向上					
	根拠法令等	半田空の科学館条例、半田空の科学館条例施行規則					
	対象・目的	空の科学館・体育館は子どもたちが星や宇宙などの科学に興味を持つことができ、またスポーツを中心としたレクリエーション活動ができる複合施設で、指定管理制度に基づく施設管理を通して各種事業を展開したり、快適に利用できる施設環境を整える。					
	目的を達成するための手段・活動内容	空の科学館においてはプラネタリウム投影の他、観望会をはじめとした星や宇宙への興味や学習意欲を高める魅力あるイベント、各種教室・企画展等を開催する。スポーツ施設としての体育館においても同様に各種イベント、教室等を開催し、施設全体としては利用者が安全で快適に利用できるような適正な管理運営に努める。					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①空の科学館利用者数	27,965	29,704	11,096	人	
		事業費	71,504	71,834	71,455	千円	
		人件費	1,249	621	1,234	千円	
		総事業費	72,753	72,455	72,689	千円	
		活動単位当たりのコスト	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
	①空の科学館利用者一人当たりのコスト	2,602	2,440	6,551	円/人		
	成果	成果指標	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①空の科学館利用者数	実績値	—	—	11,096	人
			目標値	—	—	30,000	
②施設利用の満足度が「大変良かった」以上の割合		実績値	70.0	—	—	%	
	目標値	80.0	80.0	80.0			
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性 妥当	④上位施策への貢献 中程度	⑦コスト削減余地 ない			
		②市民ニーズ 高い	⑤成果向上の余地 ある	※対象・手段の変更			
A 課題解決のための目標	事業の評価・課題	C 新型コロナウイルス感染症の影響で休館や入場制限等を行ったため、利用者数は減少したが、感染症対策を施した上で、特別展示として子どもも大人も楽しめる体験型の企画展や展示会、子どもの工作教室やプログラミング体験教室講座を開催し、子どもたちに学ぶ機会を提供することができた。プラネタリウムでは学習投影、大人向け・子ども向けの投影を実施することにより、幅広い年齢層に対する利用者の拡大を図った。なお、毎年度3月に施設利用の満足度調査としてアンケートを行っているが、施設に対しての具体的な要望や提案を聞く調査項目へと変更したため、単によかったかどうかの満足度の指標を確認することができなかった。					
		改善推進					
A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	施設の設置目的を念頭にしつつ、アンケート等により来館者・利用者のニーズを把握し、サービス向上と効率的運営に向け指定管理者と協議し、指定管理者制度のメリットを活かしていく。 また、幅広い年代の市民が興味を持つイベントを企画することで、新規来館者の確保を図る。					
	令和3年度の目標	成果指標	目標値	単位			
		①空の科学館利用者数	37,000	人			
	②施設利用の満足度が「大変良かった」以上の割合	80.0	%				